

# 水害時の衛生対策と消毒方法について

## 1 家屋等が浸水した場合

豪雨等により家屋などが浸水した場合は、洗浄や拭き取りにより十分に汚れを除去して、乾かした後、消毒するようにしてください。

(消毒は、汚れのない状態でないと、効果を発揮することが出来ません。)

## 2 衛生対策について

家屋などが浸水した場合、次のとおり洗浄及び衛生対策を行ってください。

### ●床上浸水の場合

室内は、食事や睡眠など生活を行う場所のため、泥や汚れを充分に取り除いた後、消毒を行いましょう。

- ①水が引いた後、濡れた畳や家の中の不要な物を片付けてください。
- ②汚れた家具や床・壁などは、水で洗い流すか雑巾で水拭きするなどしてください。
- ③食器類や調理器具などは、水洗いして汚れをきれいに洗い流してください。
- ④食器棚や冷蔵庫などは、汚れをきれいに拭き取ってください。

### ●家の周囲や床下浸水の場合

土砂等を取り除いた後、水道水で洗い流し、しっかり乾かすことが重要です。床下に流れ込んだ土砂や水分が残っている場合、その湿気により、家の基礎や土台（床組）などに影響がでる場合があります。

- ①汚泥や不要なものなどを片付けてください。
- ②庭木や外壁についた泥は、水で十分に洗い流してください。
- ③床下換気口のごみを取り除き、床下の風通しを良くしてください。
- ④床下はスコップや流水を用いて汚泥を取り除いた後、雑巾や新聞紙等で水気をなくし、扇風機などにより強制的に換気し、乾燥させてください。

### ●水害時の健康管理(食中毒、感染症の予防)

- ①受水槽は、安全と衛生を点検・確認してから使用してください。
- ②水に浸かった食品や、停電により保存温度が保てなかった要冷蔵・冷凍食品はできるだけ廃棄してください。
- ③からだに異常を感じたら早めに医療機関で受診してください。
- ④食事の前や用便、清掃の後などは、しっかりと手を洗ってください。
- ⑤井戸水は、水質検査で安全を確認後に使用してください。

## 3 消毒方法について

消毒液は、過剰に使用すると人の健康や環境へ影響を与えることがあります。使用は必要最小限としましょう。使用の際には、取り扱い説明書に従い、換気を十分に行

って、事故が起こらないよう注意してください。  
子どもさんなどの手の届かない場所に保管してください。

**参考** 消毒方法の例（色々な濃度のものが市販されているので希釈倍率には注意してください。）

消毒対象	消毒薬	調整方法	使用方法
屋内 （汚水に浸かった壁面や床、家財道具）	0.1%塩化ベンザルコニウム （逆性石けん）	10%塩化ベンザルコニウム 10mlに水を加えて1L(0.1%)とする	①泥などの汚れを洗い流すか、雑巾などで水拭きしてから、十分に乾燥させる。 ②調整した液を浸した布などでよく拭く。（噴霧器で噴霧した場合は、濡れる程度に噴霧する。その後、風通しをよくしてそのまま乾燥させる） * 消毒は、汚れが残っていたり、濡れている状態で行うと十分な効果を発揮することができません。
手指 （後片づけなどで、汚染された箇所や土に触れた手指）			①汚れを石けんで洗ったあと、流水で石けんをよく落とす。（石けんが残っていると殺菌力が低下します。） ②洗面器などに入れた調整後の消毒液に手首まで浸し、30秒以上もみ洗いする。 ③その後、乾いたタオルなどで、よくふき取る。
食器類	0.02%次亜鉛素酸ナトリウム（家庭用塩素系漂白剤でも可）	10%次亜鉛素酸ナトリウム 2mlに水を加えて1L(0.02%)とする	①食器等を水洗いする。 ②調整した消毒液に5分以上浸し、自然乾燥させる。（家庭用塩素系漂白剤を用いた場合は、水ですすぐ）

※消毒液を取り扱う際には、必要に応じて長袖、長ズボン、めがね（ゴーグル）、マスク、ゴム手袋などを使用し、皮膚や目にかからないように注意してください。また、皮膚についた場合、水と石鹼でよく洗い流し、目に入った場合は、水で15分以上洗い流し、医師の診察を受けてください。

※使用する直前に希釈し、希釈濃度を守るとともに、他の消毒液や洗剤と混ぜないで使用してください。

※消毒液をペットボトルへ移し替えないでください。誤って飲んでしまう事故につながりますので、必ず使い切ってください。消毒液の入っていたバケツやじょうろなどは使用后、十分に水で流してください。

※浄化槽には、消毒液を流さないでください。（浄化微生物に影響を及ぼします）

問い合わせ先：氷見市市民部健康課 電話 74-8062